曲亭馬琴著

傾城水滸傳第九編

歌川國安画

下帙巻之上

へ13
3087
29

へ13 特
3087
29

曲亭馬琴著　　下帙四弓合本

還道村受天書　個の轉禍爲福通夜物語
春雨大箱が

傾城水滸傳第九編之三

丹波路懲贋物　後の吹毛求疵舊里話表
風風力壽が

歌川國安画　　書行偃鶴堂梓

赤
力

暫くもち
はとり者
未だ
鍋 やま

力
路

力

左へ
左の下へ

路
右より外の
左へ

年代記児童講譚

初編全二編近刊　当年上梓　山東庵京山作

此稗史ハ神代のむかしよりの年代記ふまるべきものの外ふるれたる事を補ひあつめしるさ不ものを絵ふあらハしてとれをよめバ物しり世ものしるべきこと歌をよくあきらめて童子ののれ考るたよりともなるべ記ふまるべきものなり

年中行事　御祝儀日童講譚

全部十二冊　東庵京山作

此稗史ハ正月の松ゐぐりを始とし七くさ粥の事けづりかけのゆゑ七夕の故実歴史をかく考てその事を絵ふあらハし年中の祝ひ日を考る早学問の為ざうしなり

拳獨秘書古中本　全一冊　山櫻連々逸軒揺舟合作

この書ハ拳とまのあらまぐ初心の官人ゆ丹つ伝ハ板見のこと技の出一方ハ自然とひとりおぼれバ朋夕傷ふあるべし弄ものゆゑ上達せ不ものなるべ名本ものの

戲場顯微鏡 上帙二冊 下帙二冊 彩色

黙老漁隱著
歌川國貞畫

戲場考古博覽の諸子著述する彩劇の書をかりとのべごも皆故実
濫觴のことを考ひて省せう観くの規則をあるべきことはまのの然ばとも
うくうたらうとも芝居のうけまくつろうかのいとこつくれてすく芝居の
おのの功者とるることをあつめ上三ぢ考ぐるの慈悲拙考古の然ぶくあり云也

本朝繍像艶容女仙外史 初編五冊

黙々漁隱飜案

この書は唐山の逸田嗅が筆とて著せし妙案にて奇怪小説短才愚酒を助ん日
記書るれば元はまで本朝の飜案の作なれども小説の作なれば唐山の
のるを倣りて唐賽児を弁の内に結まつ
つぎに紫雲の油亭翁の輩より妙なるの看官の誌君子よろしく高
ひく次編もんぢをうあらんことをこいねがふのみ

顯微鏡後編 萬邦劇場談 上下二冊

黙老漁隱著

元は初編のまつる孤の故なるの
すぐく戲場にくらくるの狂言のおのれのまきのくさぐ
ぐ考へ地のるる

瀧澤篁民著

迎福南鍼録

一名 相宅手引草

全部五冊 近刻

右同著

雅俗百傳一奇

大本全五冊繪入

平假名附 近刻

右書は遠く開板仕い浄通油町書林 仙鶴堂小林喜右衛門印行

近来選擇相宅の書年々出月に行れて五車ゆ
留牛に汗をるるまり然とるとの法体初心の為ゆ懐と
あそ解ぶ云ことにてこの書協紀辨方書本
つて方位宅相神敬走避の要頁に其吉凶禍福
凶避禍と禳ひ福を迎ふ云ことを示めしこ
ある学者に嫌くて鼓多不辨のものとも解難く行
易うる大九一家の主人るの常小坐右小措と云る吉
凶悔吝の惑るるふべき日用有益の良籍るり

この書は雅とるく俗とるくその行状に奇ある古人の
傳を輯録くして勧懲の一端とこれば忠孝
義烈尚剣節操の世に捷れるるる愚逆名聞
技藝好事のとのらまを得るる随て漏ることの
見併善を見て人の進んとこ欲ーー本を巨をそ
[illegible]言人をその所る巻下安出像あ一ぶこれを
繪ことに云曾見ずて巻と畢る異聞塊奇の珍書るり